

## = 第24号 =

発行：2006年11月1日

編集：立命館大学応化会事務局  
編集責任者：北尾 舒彦〒525-8577  
滋賀県草津市野路東1-1-1  
立命館大学応用化学系事務室内  
TEL. 077-561-2658  
FAX. 077-561-2659  
e-mail oukakai@st.ritsumei.ac.jp

## Rits 立命館大学 応化会ニュース

立命館大学

## 応用化学系の

## 今と将来に向けて

応用化学系前期学系長 岡田 豊



応化会の皆様方におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。皆様には、それぞれの分野でご活躍されていることと思えます。しかし、今の時代、必ずしも順風満帆というわけにはいかない場合もあるでしょう。文頭から、いきなり、このような話題を出して恐縮ですが、事情は大学も同じです。ご存知のとおり、少子化の影響で、大学就学人口が激減し、定員割れを起こしたり、私立大学の中には倒産さえ危惧される学校が出ている状況です。特に、理工系では、理科離れというところもあり、非常に厳しい状況にあります。

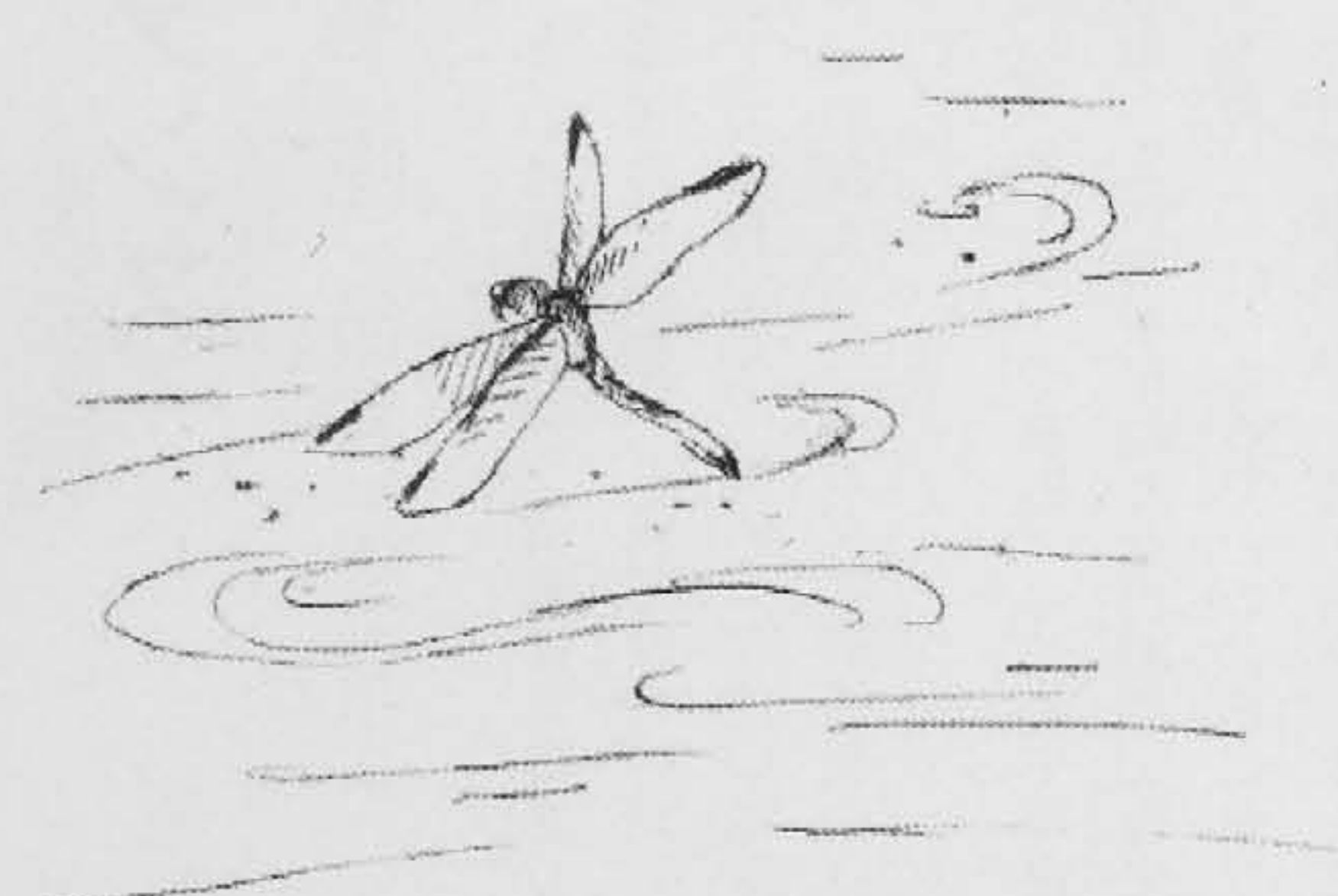
幸いにも、応用化学科・化学生物工学科では、志願者数の大きな減少もなく、この四月には、計二〇〇名程の新入生を迎えることができました。しかし、将来に向けても、このような状況が続くという保障は全くありません。二〇〇六年度の学科長を仰せつかり、半年が過ぎましたが、その仕事の約半分は、入試関係・志願者確保の問題でした。これまで、様々な入試方式を実行してきた立命館大学ですが、来春の入試でも、新たな方式をスタートさせます。また、この四月に開校した立命館守山高等学校を含め四つの付属校との連携や、協定高との高大連携アドバンスプログラムも実施しています。

さらに、オープンキャンパスという催しを、年六回開き、各学部あるいは学科の宣伝をしています。開催当日のキャンパスは、「まるで学園祭のようだ」と言えば言い過ぎかもしれませんが、多くのイベントが開かれ、にぎやかになります。このような社会情勢の中で、応用化学科・化学生物工学科の新しい展開を計るため、以下のような計画を進めています。すでに、新聞紙上等でもご存知のとおり、二〇〇八年四月に、「生命科学部」および「薬学部」を設置するといふ件です(学部・学科名称はいずれも仮称です)。二十一世紀の科学技術においては、生命科学が中心的課題となることが予想されており、立命館大学としても理工学部の研究・教育における高度化を図るうえで非常に重要であると考えています。そこで、生命科学の基盤学問である化学(応用化学科)と生命科学の一領域である化学生物工学科等を基礎として、生命科学分野の新展開を図ることとなりました。新学部では、応用化学科は、ライフサイエンスの基盤となる化学を担当し、応用化学と共に生命科学の分野を新たに展開することになります。また、化学生物工学科は、生物工学科と改称のうえ(昔の名前に戻ります)、微生物や植物等を中心としたバイオテクノロジー、環境領域、および生物

エネルギー関連を中心に新たな教育・研究の展開を図ることになっています。

卒業生の中には、出身学科が出身学部からなくなり、さびしく感じられる方がおられるかもしれませんが。しかし、新学部「生命科学部」の新「応用化学科」・新「生物工学科」として、教育・研究をはじめすべての分野において高度化し、皆様方のご期待に添えるよう、全力をつくす所存です。皆様方のご指導とご支援を何卒よろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、応化会の皆様方のお一層のご健勝とご活躍を祈念申し上げます。





## 「応化会」中国・四国支部会発足のぞ挨拶

中国・四国支部長 宮川 金二郎

(昭和三十一年卒)



応化会の皆様、お元気でご活躍のことと存じます。ご承知のように母校立命館大学は見

事な躍進をとげ、日本の大学中の大学として誇れるまでに発展し続けています。これはひとえに教育、研究に携わってこられた諸先生方、および社会でご活躍の卒業生の方々が学会および社会から高く高く評価されている結果であり、誠に喜ばしいかぎりです。

神の手にゆだねられてきた生命までもが化学の手によって解明されようとしております。一方、化学の鬼っ子でもある様々な公害物質に関する諸問題も産みの親である化学が責任を負わねばなりません。限られた資源のきな臭い地球上での奪い合いの終焉にも化学の役割は極めて大きいものと思われま

産学協同、異業種間の相互理解と協力が叫ばれる中、同じ学園で学び、同じ環境で過ご

した卒業生間では話が速いはずで、仕事上の諸問題の解決や事業の発展には母校の先生方や卒業生同士の力が大きな役割を果たすものと信じております。しかし平素のコミュニケーションがなければ宝の持ち腐れになります。この情報交換の場が同窓生の集う場ではなからうかと思っております。

すでに各地方では「応化会」支部が発足し、活動されておられます。卒業生が数百名にも及ぶ中国・四国地方にはまだこのような場がございませんでした。この度「応化会」会長木村碩志氏および大学本部関係者の方々のご支援のもとに、中国・四国支部発足にこぎつけ、去る六月十四日広島にて、かつて難解な物理化学でお世話になりました鈴木啓三先生および元学部長の激励の傍ら数々の日本の科学会委員を勤められた谷口吉弘先生ならびに多数の先生方のご出席を頂き、支部会発足の産声をあげました。また不肖、宮川が支部長に就任いたしましたことをご報告いたします。支部会は会員の方々とご相談しながら運営してまいりますので、よろしくご協力をお願い申し上げます。

## 会員だより

## 「シヤル・ウイ・ダンス」

白石 宣 隆 (昭和三十一年卒)

昨年六月末に住化カラー(株)およびその子会社・カラーコスモを退職し、四十五年間のサラリーマン人生に区切りをつけました。卒業の年数より永いのは、在学中に二年間大蔵事務官をしていた為ですが、理工学部出身の技術屋にとつて、この経験は後に貴重なものとなりました。卒業と同時に入社後、会社の資本分離や合併、兼務などにより勤務先名が変遷し、友人からは「よく会社が変わる奴だ」と言われましたが本人は一所懸命に仕事を続けてきただけでした。

IT化、高齢者福祉環境や幼児教育環境の整備などを重点に活動し、来年度の四期目を目指しておられます。池田市在住の校友諸兄弟を始め友人知人の方々の応援を頂ければ幸いです。

四十三年の間には国内外のいろんな分野の仕事を担当してきましたが、不思議にも転居をするような転勤は一度もありませんでした。しかし、これまで会社人間で過ごしてきた私は近隣地域の人達とのかかわりは全くといってありません。これからはもっと地域に関心を持って、少しは何か役立つことでも出来ればと思っております。

話は変わりますが、退職後、昼前まで朝寝坊のぐうたら生活を看かねた女房殿の「社交ダンスでも習いに行ったら」との言葉に乗せられて、近所に出来たダンス・スタジオを訪れたところ、計らずも北摂交友会の大先輩・石田明正氏(昭和二十五年卒・経済)の奥様がプロとして開設され、ボランティアで地域の方に講習会を開いておられたのです。世間が狭いのか?立命館校友が多いのか?先輩の手前「三日坊主」にも出来ず、今では九月に宝塚ホテルで開かれるデイナー・ダンスパーティーでのデモダンスに向けて、日々「シヤル・ウイ・ダンス」

私の住む大阪府池田市では校友でわが応化会の一員でもある奥野康俊氏(平成元年卒・分析化学)が市会議員として活躍しておられます。交友会の縁もあつて、活動を通じて地域に貢献できる一助になればと後援会の幹事として応援しています。奥野議員は現在三期日で市の財政健全化のための

と励んでおります。新春ダンスパーティーにて(筆者左端)





# ダイナミックRightsと大学教育

伊藤 省 二 (昭和四十三年卒)



大学教育の大切さを痛感したエピソードを二つご紹介します。

一つは、二十数年前に日本原子力研究所に向向したときのことです。悩んだすえに選んだテーマは、「ロボット用センサのγ線照射効果の研究」でした。理由は、卒業研究のとき、ガラスにX線や紫外線を照射し吸収スペクトル変化を測定した経験があったからです。

「海外渡航中および海外渡航を予定しているみなさんへ — 英国における航空機爆破計画の発覚に伴う注意喚起について」これは、立命館大学のホームページの二〇〇六年八月二十日現在のトップ記事です。「思えば遠くへ来たもんだ。振り向くたびに故郷は…」一九七八年の武田鉄矢のヒット曲です。私は、一九六八年、松田二郎先生（無機化学）に卒業研究のご指導をいただきました。大学院への進学があたりまえの今日からすれば一年間の卒業研究はほんの一部にすぎないかも知れませんが、みずから課題を設定し、解決策を見いだす「大学教育」の大切さを、今、改めて実感しています。

卒業後は計測機器メーカーに就職し、オペティカルデバイスの開発から始め、営業、技術管理、技術雑誌の編集と様々な業務を担当しました。任地も国内・外いろいろでした。二年半前からは(独)科学技術振興機構で、大学の研究シーズを産業界に移転するお手伝いをしています。

もう一つはごく最近のできことです。ある大学の先生からガラス研究の最先端状況をヒアリングし、産業界への技術移転のネタをなんとか探し出そうと格闘していると、きのことです。「一九六〇年代、ソ連のオブシンスキーがカルコゲナイドガラスの光物性研究の話題をさらいましたね。」という話題をヒントに共通の場ができ、多くの情報をいただくことができました。

産学連携の対象分野はバイオからITまで実に様々です。高度化・専門化する科学技術すべてを理解するなんてことはとてもできませんが、研究者や技術者の意図を把握することがコーディネータの基本です。そのときにベースになっているのが四十年前の「大学教育」です。現在、立命館はダイナミックに動いており、ますます成長し続けるに違いありません。応化会が立命発展の一役を担うことを心より期待しております。

# 「はや十年」

山田 佳 博 (平成九年卒)



平成九年卒の同窓生の方々は、社会の荒波にもまれはや十年目になります。十年ひと昔と言いますが、この十年間で皆様はどのように変化、発展されましたでしょうか？

私にも、様々な変化がありました。就職、結婚、子育て、三十路を過ぎてもまだまだ成長期の様に体重が…など色々です。取りあえず今回は仕事についてお話しさせて頂こうと思います。

ちなみに私は大学院も立命館でお世話になり、社会人としてはまだ八年目です。卒業後から現在まで新コスモス電機という会社に勤務しています。新コスモス電機？と御思いの方も多くおられると思います。ガス漏れ警報器『ピコピコ』、『みはり』の商品名を聞かれた方は少なくないと思います。その家庭用ガス警報器や、工場等の産業分野で使用する携帯用、定置式ガス検知器のメーカーに勤務し、ガスセンサの開発に従事しております。

ガスセンサとの出会いは、玉置先生が立命館に赴任された一九九六年、私は運良く？四回生に進級でき配属された研究室でした。新任先生と学生三名の『少数精鋭？』のメンバーで、実験装置の作製から材料の調製まで、星一徹なみのご指導をして頂き(↑冗談です)基礎を学びました。卒業研究一年間、修士研究二年間研究活動に没頭していた様な気がします。(没頭って…そんなはずはない！と突っ込まれそうですね)

そして、現在入社以来ガスセンサ開発の業務が八年目です。主には半導体式ガスセンサの開発やセンサ周辺部の開発を行っています。開発品は皆様のお宅にきつと設置されているであろう、ガス警報器に搭載されています。

この様に、十年以上もガスセンサの研究開発に関わっていますが、長い様で短かつたのが本音です。ガスセンサの知識についても色々学びましたがまだまだ足りないような気がします。

これからはスピードが求められる時代。社会になると思います。しっかりと自分の足を元を見つめ、目標をもって今以上に頑張っていきたいと思えます。



# 企画運営委員会報告

委員長 篠原長政

(昭和四十三年卒)

企画運営委員会では、応化会総会時における趣味のアンケート調査に基づき、平成十年から会員の親睦を目的とした、「ゴルフ・懇親会」をスタートさせました。

その後、「ハイキング」(アンケート調査時の名称「山歩き」を従行会→ハイキングへと改称)を平成十一年から実施しています。

ゴルフ・懇親会への参加者は、三組(五組で、当日に次回の場所と期日を決めています。ハイキングの場合は、十名前後ですが、二(三日前に連絡して参加されるなど気楽にお集まりいただいています。)

## 第十五回 応化会ゴルフ

平成十七年十月二十二日(土)

前回優勝の長島幸則氏(昭和

三十七年卒)に幹事をお願いして、

信楽カントリークラブにおいて、

ゴルフ・懇親会を開催しました。

競技はダブルペリアにて行い、

榎原隆雄氏(昭和三十二年卒)が

優勝されました。優勝商品は豪華

な果物。おめでとございます。

## 第十二回 応化会ハイキング

平成十七年十二月三日(土)

川口士郎氏(前記)に幹事をお

願いして、「湖南アルプス」ハイキ

ングを開催しました。

午前九時二十分に、JR草津駅

改札口に集合。上桐生行きのバス

に乗り、落が滝→天狗岩→耳岩→

上桐生駐車場のコース。その後は、

駅前「草津温泉」に入り、例によつ

て、安くて美味しい店で懇親。

## 第十六回 応化会ゴルフ

平成十八年三月二十五日(土)

前回優勝の榎原隆雄氏(前記)

に幹事をお願いして、宇治カント

リークラブにおいて、ゴルフ・懇

親会を開催しました。小林義明氏

(昭和二十九年卒)が優勝されまし

た。今回も賞品は豪華な果物でし

た。おめでとございます。

今回は十月七日(上)に関西カ

ントリークラブで行われます。

## 第十三回 応化会ハイキング

平成十八年五月二十日(土)

川口士郎氏(前記)に幹事をお

願いして、「中山連山」ハイキング

を開催しました。

午前九時四十分、JR大阪駅

中央口コンコース「旅立ちの鐘」

前に集合。中山寺→奥の院参道→

夫婦岩→中山最高峰(四七八m)

山本駅→阪急梅田駅のコース。そ

の後、駅近くの料理店において、

懇親を深めました。今回は十一月

以降に実施される予定です。

## 健康セミナーの開催

平成十七年十二月四日(日)

京都タワーホテルにおいて「健

康セミナー」を開催しました。

今回は上原正巳氏(昭和三十四年

卒)に冠動脈治療のご経験からご

提案いただき、「循環器の病気と治

療について」と題して、京大医学

部附属病院、循環器内科の田村俊

寛先生にご講演いただきました。

近年、日本人の食生活は欧米化

して、生活習慣病を合併している

人が増えているそうです。

過食・運動不足によって内臓脂

肪が蓄積し、肥満・高血圧・高脂

血症・糖尿病など複数の生活習慣

病を合併した状態をメタボリック

シンドロームと呼ぶそうです。

これは動脈硬化と密接に関係が

あり、動脈硬化が増悪すると虚血

性心疾患(狭心症や心筋梗塞)が

生じやすくなるそうです。

この病気による死亡数は、わが

国ではがんに次いで多くなり、そ

の予防は非常に大切であることか

ら、先生には、メタボリックシン

ドロームおよび虚血性心疾患につ

いて、その診断、治療、予防法な

どを解りやすくご説明いただきました。

ありがとうございました。

## 地域別活動推進委員会報告

宮川金二郎氏(昭和三十一年卒)

を支部長とする、応化会「中国・

四国支部」が結成されました。

支部が結成されるまでの準備と

して、広島県在住の核になつてい

ただく四名の会員に、「中国・四国

地区懇話会・懇親会」世話人会の

人選方法、世話人会の時期と場所、

懇話会の内容などについて御意見

を伺いました(平成十七年八月)。

その後、地域別活動推進委員会に

おいて討議し(九月)、世話人の委

嘱、世話人会の開催(十二月)、そ

して、平成十八年五月十四日(日)

に「中国・四国地区懇話会・懇親会」

が開催され、全員一致で支部が結

成されました。

内容は、第一部「中国・四国地

区懇話会」

一、大学報告 「理工

学部」の将来像」元理工学部長教

授 谷口吉弘先生

二、記念講

演会 「ポスト小泉政治と日本再

生」 政治ジャーナリスト、立命館

大学衣笠総合研究機構客員教授 末

延吉正先生

第二部 「懇親会」でした。

会員の皆様には、今後ともよろ

しくお願い申し上げます。





# 応用化学系紹介

現在、応用化学系は応用化学科と化学生物工学科の二学科から成り、合わせて二十九名の専任教員が在籍しています。昨年度（本年三月）でもって定年退職された先生はなく、本年度は昨年度と同じ専任教員体制で運営しています。ただし、新たに本年四月から、佐々木真一先生、山下 基先生、山本和弘先生の三名の先生が応用化学系二号助手として着任され、研究はもちろんのこと、講義・実験にも精力的に取り組んでいただいています。

## 新任の先生から一言



佐々木真一先生

本年四月より応用化学系に二号助手としてお世話になっております。専門は有機合成化学、分析化学、光化学で、現在は「光合成色素の合成的研究」というテーマで研究活動を行っています。天然色素であるクロロフィル類を出発原料として合成的変換を行うことにより、自己集合能を持つ誘導体を合成する、あるいは分子認識能を持つ色素多量体の合成や、センシング機能を有

する人工色素の開発など、有機合成を基盤とした超分子化学に取り組んでいます。諸先生方をはじめ、皆様のご指導、ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

### 略 歴

- 一九九四年三月 大阪大学基礎工学部化学工学科卒業
- 一九九六年三月 大阪大学大学院基礎工学研究科修士課程修了
- 一九九九年三月 大阪大学大学院基礎工学研究科博士課程修了
- 一九九九年四月 慶応義塾大学理工学部応用化学科助手
- 二〇〇二年四月 立命館大学理工学部化学生物工学科博士研究員
- 二〇〇三年四月 立命館大学COE推進機構ポストドク研究員
- 二〇〇六年四月 立命館大学理工学部応用化学系二号助手



山下 基先生

本年四月より応用化学系にて二号助手としてお世話になっております。専門は結晶学、高分子科学で、結晶成長界面での高分

子鎖の協同的挙動に興味をもって研究を行ってまいりました。本学に着任してからは、結晶学の知識を生かしてタンパク質の高圧結晶成長プロジェクトの立ち上げと高圧下でのアミノ酸の溶媒媒介相転移プロジェクトに参加させていただいております。研究者として、教育者としてまだまだ未熟な点が多くありますが、諸先生方をはじめ、皆様のご指導、ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

### 略 歴

- 一九九六年三月 京都大学工学部衛生工学科卒業
- 一九九八年三月 京都大学大学院工学研究科修士課程修了
- 二〇〇四年三月 京都大学大学院理学研究科博士後期課程修了 博士（理学）取得
- 二〇〇四年八月 広島大学産学連携センター 講師（中核的研究機関研究員）
- 二〇〇五年七月 立命館大学総合理工学研究機構 ポストドクトラルフェロー
- 二〇〇六年四月 立命館大学理工学部応用化学系二号助手



山本和弘先生

光物性の関連性についての研究を各種分光法を用いて行ってきました。現在はゾル・ゲル法による酸化セラムミックス、薄膜の作製や、放射光を用いた無機材料の構造解析に関する研究に携わっております。今後、研究、教育に真摯に取り組むかと思っておりますので、諸先生方ならびに応化会の皆様方のご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

### 略 歴

- 一九九九年三月 立命館大学理工学部化学科卒業
- 二〇〇一年三月 立命館大学大学院理工学研究科博士課程前期課程修了
- 二〇〇四年三月 立命館大学大学院理工学研究科博士課程後期課程修了
- 二〇〇五年二月 博士（理学）取得
- 二〇〇五年四月 立命館大学総合理工学研究機構ポストドクトラルフェロー
- 二〇〇六年四月 立命館大学理工学部応用化学系二号助手

本年四月より応用化学系の二号助手としてお世話になっております。専門は無機材料化学、特にゾル・ゲル法や溶融法で作製したバルクガラス中の網目形成酸化物および発光中心となるイオンの局所構造と基礎





# 会員名簿の配布中止について

名簿管理委員長 上原正巳

(昭和三十四年卒)



存用の十冊を除いて全て溶解処分とする。

五、個人からの会員情報及び名簿の請求には、一切応じないが、事務局で対象者本人の同意が確認できた場合は、情報及び名簿を提供する。

六、同窓会活動に関係した業務に限り、個人情報提供を行う。情報提供を行う場合、電子データでの情報提供は行わない。また、発送業務に使用するデータでは、事務局でタックシールに打ち出した形でデータを提供する。

七、同窓会活動に必要な個人情報であってもプリントアウトした情報を使用する場合は、使用責任者、使用目的、コピー枚数、使用日時、返却日等の必要事項を明記した応化会会員個人情報請求願いを提出すること。なお、提供した情報から更にコピーを作成することを禁止する。使用後は必ず全てのコピーを回収し、事務局へ返却すること。処分は事務局で行う。

八、クラス会、その他研究室等で所有している会員の個人情報に関しては、それぞれの団体に管理する。

九、応化会名簿の管理は、オフライン状態のコンピュータで管理し、ハードディスク内に名簿を残さない。オペレータは一名とし、他の使用者は認めない。バックアップは、名簿管理委員長が任命した会員が管理する。

四、現在、在庫で保存している名簿は、保

## 名簿閲覧の手続き

同窓会活動及び個人で必要な情報を請求する場合には、個人情報開示請求書（応化会会員個人情報請求書）に必要な事項を記載して応化会会長に提出するか、郵送して下さい。開示請求があった日から三十日以内に開示等の決定を請求者に通知します。応化会会員であれば、誰でも個人情報について開示、訂正、利用停止を請求することが認められています。

個人情報の開示に当たっては、生命、健康、生活又は財産を保護する事からも情報開示は慎重に対処します。

応化会会員以外の者が開示請求しても受け付けません。

## 平成十八年度年会費納入のお願い

平成十八年度年会費（平成十九年三月三十一日迄）二千円を納入下さいますようお願い申し上げます。過年度分の会費の納入、未納入に関係なく平成十八年度分を納入下さい。

年会費は、会運営の柱です。全会員の皆様が完納下さいますようお願い申し上げます。

会員の皆様の会費納入状況を同封していただきます。平成十八年度分と共に、過年度分の納入につきましてもご協力下さい。

送金には、同封の振替用紙をご利用下さい。なお、領収証は、郵便局の発行する受領証をもって代えさせていただきます。

（注：平成十三年三月以降の卒業生は、終身会費制となっておりますので、年会費納入の必要はありません。）

## 物故者

平成17年9月1日から平成18年8月31日の間に、死亡のご連絡を頂いた方々です。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

下村 俊介	(昭和19年卒)	永里 一記	(昭和20年卒)	服部 充男	(昭和20年卒)	飯田 善一	(昭和22年卒)	池永進一郎	(昭和22年卒)	西田 實	(昭和22年卒)	堀 襄二	(昭和22年卒)	松波 春雄	(昭和22年卒)	白幡 謙蔵	(昭和22年卒)	西山 十郎	(昭和22年卒)	君島 賞柄	(昭和23年卒)	齋藤 幸夫	(昭和23年卒)	谷利 博	(昭和24年卒)	青山 忠光	(昭和25年卒)	武内 孝夫	(昭和25年卒)	楠見 巖根	(昭和26年卒)	山内 高	(昭和26年卒)	谷河 武	(昭和27年卒)	川口 昇	(昭和28年卒)	中島 偉臣	(昭和29年卒)	矢野 豊幸	(昭和30年卒)	武田 哲二	(昭和32年卒)	川上 博司	(昭和33年卒)	栗林 宏	(昭和33年卒)	井汲 保治	(昭和35年卒)	佐藤 孝行	(昭和37年卒)	仲楚 康平	(昭和37年卒)	安達 浩	(昭和43年卒)	柏井 秀明	(昭和49年卒)
-------	----------	-------	----------	-------	----------	-------	----------	-------	----------	------	----------	------	----------	-------	----------	-------	----------	-------	----------	-------	----------	-------	----------	------	----------	-------	----------	-------	----------	-------	----------	------	----------	------	----------	------	----------	-------	----------	-------	----------	-------	----------	-------	----------	------	----------	-------	----------	-------	----------	-------	----------	------	----------	-------	----------

(敬称略)







## 応化会 2005年度(平成17年度) 事業報告

### I. 諸事業

1) 在校生への「2003年度版会員名簿」配布	2005年 4月
2) 2005年3月卒業生名簿作成	2005年 5月～
3) 在校生ソフトボール大会	2005年 10月 16日
4) 応化会ニュース(第23号)発行	2005年 11月 1日
5) 全会員への通信、会費請求	2005年 11月 1日
6) ゴルフ懇親会の開催	
・第15回	2005年 10月 22日
・第16回	2006年 3月 25日
7) ハイキングの開催	
・第11回	2005年 6月 4日
・第12回	2005年 12月 3日
8) 健康セミナー	2005年 12月 4日

### II. 諸会議

1) 幹事会	
・第1回	2005年 6月 12日
・第2回	2005年 12月 4日
2) 応化会ニュース編集委員会	
・第1回	2005年 7月 31日
・第2回	2005年 9月 11日
3) 地域別活動推進委員会	
・第1回	2005年 9月 10日
・中国・四国地区世話人会	2005年 12月 24日
4) 名簿管理委員会	2005年 8月 27日

## 2005年度(平成17年度) 応化会決算

(単位:円)

### 一般会計

〈収入の部〉		予算額	執行額
前年度繰越金		29,328	29,328
会費(一般)	2,300,000		1,829,000
会費(学生)	2,050,000		2,020,000
寄付金	250,000		495,000
雑収入	5,000		4,112
合計	4,634,328		4,377,440
〈支出の部〉		予算額	執行額
総会開催費	0		0
事業等補助金	200,000		9,000
地域別活動推進費	700,000		149,515
会議費	200,000		136,047
印刷費	700,000		545,734
郵送費	1,000,000		603,567
人件費	500,000		447,200
事務局費	50,000		21,518
雑費	100,000		33,000
拠出金(特別会計へ)	0		0
拠出金(連絡協議会へ)	100,000		100,000
在学生活動援助費	200,000		200,000
振込み手数料	100,000		54,175
予備費	784,328		92,800
合計	4,634,328		2,392,556
次年度繰越金			1,984,884

### 特別会計

〈収入の部〉		予算額	執行額
前年度繰越金	4,166,517		4,166,517
拠出金	0		0
名簿売上	10,000		0
名簿荷造送料	10,000		0
雑収入	1,000		0
合計	4,187,517		4,166,517
〈支出の部〉		予算額	執行額
名簿出版費	0		0
名簿荷造送料	50,000		0
人件費	500,000		306,900
事務局費	200,000		218,750
予備費	3,437,517		97,673
合計	4,187,517		623,323
次年度繰越金			3,543,194

## 応化会 2006年度(平成18年度) 事業計画

### I. 諸事業

1) 2006年3月卒業生名簿作成	2006年 5月～
2) 在校生ソフトボール大会	2006年 10月
3) 応化会ニュース(第24号)発行	2006年 11月
4) 全会員への通信、会費請求	2006年 11月
5) 卒業記念パーティー	2007年 3月 21日
6) ゴルフ懇親会の開催	
・第17回	2006年 10月 7日
・第18回	未定
7) ハイキングの開催	
・第13回	2006年 5月 20日
・第14回	未定

### II. 諸会議

1) 幹事会	
・第1回	2006年 6月 25日
・第2回	未定
2) 企画運営委員会	未定
3) 応化会ニュース編集委員会	
・第1回	2006年 7月 9日
・第2回	2006年 9月 17日
4) 地域別活動推進委員会	未定

### III. 支部活動(関東支部、東海支部、中国・四国支部)

・中国・四国地区懇話会・懇親会	2006年 5月 14日
-----------------	--------------

## 2006年度(平成18年度) 応化会予算

(単位:円)

### 一般会計

〈収入の部〉		予算額
前年度繰越金		1,984,884
会費(一般)	2,000,000	
会費(学生)	2,020,000	
寄付金	250,000	
雑収入	5,000	
合計		6,259,884

### 〈支出の部〉

〈支出の部〉		予算額
総会開催費		0
事業等補助金	200,000	
地域別活動推進費	700,000	
会議費	200,000	
印刷費	700,000	
郵送費	1,000,000	
人件費	500,000	
事務局費	50,000	
雑費	100,000	
拠出金(特別会計へ)	0	
拠出金(連絡協議会へ)	100,000	
在学生活動援助費	200,000	
振込み手数料	100,000	
予備費	2,409,884	
合計		6,259,884

### 特別会計

〈収入の部〉		予算額
前年度繰越金	3,543,194	
拠出金	0	
雑収入	1,000	
合計		3,544,194

### 〈支出の部〉

〈支出の部〉		予算額
人件費	500,000	
事務局費	200,000	
予備費	2,844,194	
合計		3,544,194